

北条っ子 学び通信



令和元年(2019年)11月5日
No.4
豊中市立北条小学校

昨年度から「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」(道徳科)になりました。本校では、一昨年度から道徳の研究を進めており、今年度は「多面的・多角的に考えを深める授業づくり」をテーマに授業研究を行っています。

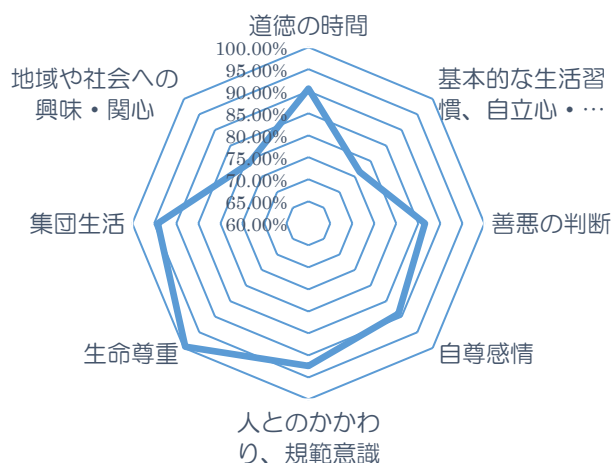
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童が多様な感じ方や考え方に接することが大切です。多様な意見交流をもとに、自己を見つめ直し、考えを深め、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を道徳科の時間を中心にして、学校教育全体の中で養いたいと考えています。

また、道徳科の授業を進めるにあたって、児童の実態を把握し、特に深めるべき道徳的価値を探るために、全校児童を対象に道徳アンケートを行い、分析をしてきました。

アンケートの結果から、「道徳の授業が好き」「道徳の授業は大切である」と考えている児童が多かったです。これは、これまで道徳授業の研究をしてきた成果だと考えられます。

また、「生命尊重」とともに「人とのかかわり」や「集団生活」に関する項目において、肯定的な回答が多く、相手の気持ちを考えたり、助け合うということが大事であることはよく理解しているようでした。しかし、実際には、友だちとの関わりの中で、この理解が道徳的な実践意欲・態度へとつながっていない事案もあり、よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢である「親

2018年度道徳アンケートから
(肯定的評価「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」)

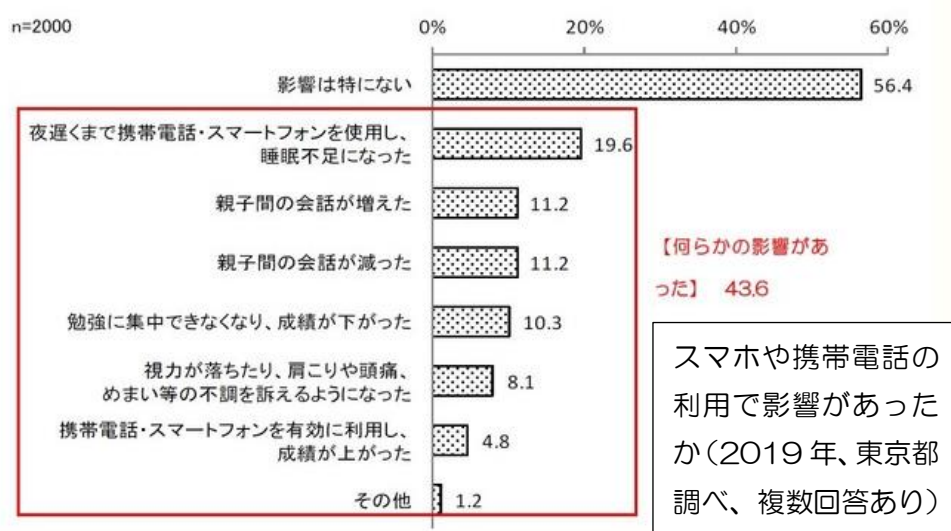


「北条っ子学び通信」は、北条小学校のホームページでもご覧になれます。

切、思いやり」という項目について、今年度、重点的に授業研究をすることにしました。

「自尊感情」の項目では、「自分には、よいところがあると思う」「むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦している」という質問に対する肯定的な回答率が低かったです。また、「地域や社会への興味・関心」の項目でも肯定的な回答率が低いことが分かりました。

肯定的な回答率の低さが最も目立っていたのが「基本的な生活習慣や自立心・自律性」の項目です。実生活の中でも、学習の準備をしたり、身の回りのことを自分自身で行うことが苦手な児童が多くいるようです。全国学力・学習状況調査をもとに、学力が上位に位置する子どもの特徴を分析したところ、保護者が子どもに対し、規則的な生活習慣を整え、文字に親しむよう促し、知的な好奇心を高めるよう働きかけていることが明らかになっています。本校でも、家庭と協力して「基本的な生活習慣」「自立心・自律性」を大きな課題として、意識して指導していきたいと思えます。



「基本的な生活習慣」と関連して、スマートフォンなどの使い方を考えていくことも重要です。小中学生とともに、過半数の子どもは平日でも1日1時間以上パソコンや家庭用ゲーム

機、スマートフォンなどによるゲームをしていることが分かっています。平均時間は小学生で1.55時間、中学生では1.69時間に及びますが、ゲームをする時間が短いと、学力テストの平均正答率が高くなるというように、相関関係があることが明らかにされています。あわせて、子どもにスマートフォンや携帯電話を持たせたことで「影響があった」と回答する保護者が、43.6%にのぼることが2019年5月9日、東京都の調査からわかりました。上のグラフから分かるように、睡眠不足、成績や視力低下など悪影響が見られています。

10月9日(水)に6年生で道徳の研究授業を行い、授業をもとに校内の教職員で研究協議を行いました。教材は「最後のおくりもの」というお話です。

「親切・思いやり」という項目について、小学校では、低学年で「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」、中学年では「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」、高学年で「誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること」について考えさせることになっています。

高学年の時期は、自他を客観的に捉えることができるようになってくるので、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになります。したがって、この時期には、どのようにして相手と接し、対処していくことが相手のためになるのかをよく考え、相手の立場になって親切にしようとする心情の大切さに気づかせていく必要があります。

「最後のおくり物」のあらすじ

有名な劇団の俳優になる夢をもつ貧しいロベーターに、劇団養成所の守衛ジョルジュじいさんが、劇団に入れるように匿名で月謝代を送り応援する。ジョルジュじいさんが体を壊し月謝代がはらえなくなったことをきっかけに、ロベーターは送り主がジョルジュじいさんであったことに気づく。ロベーターは亡くなったジョルジュじいさんの書いた最後の手紙を読み涙ぐむ。そして自分への温かい思いやりに気づき、夢に向かって頑張っていくと誓う。

<授業中の子どもたちの意見>

☆「ジョルジュじいさんが名前を書かずにお金を送ったのはなぜだろう？」

- ・ロベーターが遠慮するから。 ・申し訳ないと思い、返されそうだから。
- ・誰かの役に立ちたいけど、名前を書くと気がつかって、お金を使わないだろうから。

☆「最後に手紙を読んで、涙を流したロベーターは、どんなことを思っていたのでしょうか。」

- ・僕のためにお金を送ってくれてありがとう。
- ・ジョルジュじいさんのかわりに夢をかなえよう。
- ・お金が途絶えたとき、うらんでしまっごめん。恩返しをしたい。
- ・今できることを全力でしよう。初舞台を見せたかった。

<授業を終えて、児童の感想から(抜粋)>

- ・「親切」にはとても大きな力があって、人の心もいいように変えてくれる素晴らしいものだと思った。
- ・親切にされたら、絶対に感謝の気持ちを持たないといけない。

- ・親切をする方もされる方もどちらも気持ちがよくなると思った。
- ・人に親切にしてもらったら、その分、他の人に親切にしたい。
- ・自分が親切にされたら、お礼だけはきっちりとしたい。
- ・親切にしたら、きっとその優しさはかえってくる。
- ・誰かに親切にすると、こんなにも喜んでくれる人がいるんだと思った。
- ・自分も、これからたくさんの人を笑顔にさせられるようにしたい

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2年生では、「くりのみ」というお話で研究授業を行いました。

「くりのみ」のあらすじ

食べ物を見つけるのが難しくなってきたなかで、きつねと友達のうさぎが食べ物を探しに行きます。

うさぎとわかれたあとで、きつねはたくさんのどんぐりを見つけ、自分1人でおなかいっぱい食べます。しかし、再び出会ったうさぎには、何も見つからなかったとうそをついてしまいます。すると、うさぎはこまっている友達を助けようとたった2つしか見つけられなかったくりのみのうちの1つをきつねに渡します。そして、うさぎのやさしさやあたたかさにつれたきつねが涙を流します。



この教材を通して、自分の利益のみを優先するのではなく、きつねのことを思いやって、くりのみを渡したうさぎの優しさや温かさを感じ、相手が困っているときは、温かい心でいたり、互いに助け合っていくことの大切さに気づかせたいという思いで授業をしました。

4年生では、「3つのつつみ」というお話で研究授業を行いました。

「3つのつつみ」のあらすじ

ロシアのデルセウというりょうしが、アルセーニエフという地理学者に頼まれて山を案内する。その際、デルセウは山小屋を使用した後に、次に山小屋を使う人のために3つのつつみ(マッチと米と塩が入っている)を準備して、次に山小屋を訪れる人が過ごしやすいようにしておく。

この教材を通して、親切とは目の前にいる人に対して行うのはもちろんだが、その場にはないだれかのためにも行うことができるということを知らせたいという思いで授業をしました。

これらの授業を通して、2年生では、「目の前で困っている人のため」、4年生では、「目の前にないだれかのため」、6年生では、「相手の立場を考えて」親切にすることが大切であることを学ぶことができたと思います。すべての北条っ子が親切・思いやりの大切さを学び、実践できる子に育つことを願っています。